

NEWS LETTER

No. 31
2022.09
SUMMER



大森 桂
ダイバーシティ推進室長

山形大学男女共同参画推進室は、今年度よりダイバーシティ推進室となりました。「ダイバーシティ」については、本号のトピックでも取り上げていますので、ぜひご一読ください。

推進室がもっと身近な存在になるよう、今年度からこのニュースレターも一新しました。形式的になりやすい事業報告はコンパクトにまとめ、気軽に読めて、ダイバーシティを自分事として意識して頂けるような内容・紙面づくりを進めていきます。どうぞご期待ください。

男女共同参画やダイバーシティの推進にあたり、当推進室では、学生や教職員の多様なニーズを丁

TOPICS
01

室長の大森です

はじめまして！

率に吸い上げ、これまで整備してきた各種制度をさらに改善し、皆さんが自分らしく活躍できる大学を目指します。その人のライフスタイルやライフステージによって、直面する課題やニーズは異なりますが、「喉元過ぎれば熱さを忘れる」あるいは「泣き寝入り」することなく、次の世代や他の方が同様のことで悩んだり苦労したりすることを減らしていきたいと考えています。また、多様な価値観の人々が共生するためには、コミュニケーションが大切です。コロナ禍で普及したオンライン会議は効率的で便利なシステムですが、画面越しではなかなか難しい雑談的なコミュニケーションから生まれるアイデアや親近感も切り捨て難いものです。本部棟1階の推進室に気軽にお立ち寄り頂き、ぜひ皆さんのニーズやアイデア等をお聞かせ下さい。

今さら聞けない？!

TOPICS
02

「ダイバーシティ」って？



多様性 (Diversity) という言葉はさまざまに使われていますが、日本では、Diversity & Inclusion (受容) を省略して使われることが多いです。人種・性別・年齢・身体障害など外見だけでなく、価値観・宗教・生き方・考え方・性格・態度などの内面的な違いにかかわらず、すべての人が各自の個性を生かし能力をフルに発揮できるような組織環境をつくることを意味します (公益法人日本女性学習財団 (<https://www.jawe2011.jp/kaisetsu/index.html>) より引用)。

本学では、学生及び教職員が性別、性的指向・性自認等にかかわらず、あらゆる活動において個性と能力を発揮でき、かつ、学業・仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス) を実現することを目指しています。

TOPICS
03

自分の無意識に気が付ける？

「アンコンシャス・バイアス」



日本語で「無意識の思い込み」「無意識の偏見」「無意識のバイアス」等と表現されることもあるアンコンシャス・バイアスは、日常や職場にあふれています。

例えば、こんなことを聞いたり、考えたりしたことはありませんか？

- ◎「女のくせに」「男のくせに」などと思ってしまうことがある
- ◎雑用は、若手職員、もしくは女性の仕事だ
- ◎定時で帰宅する職員は、仕事を頑張っていない
- ◎男性が育児休暇を取得するのは、仕事に対する責任感がないからだ
- ◎女性が入る会議は長くなる
- ◎男の子が泣くのは恥ずかしいことだ
- ◎「親が単身赴任中」だと聞くと、父親を思い浮かべる
- ◎「消防士」と聞くと「筋肉質で運動神経が良さそうな男性」、「看護師」と聞くと「白衣を着た優しいような女性」を思い浮かべる

ここに記載した例は、ほんの一例に過ぎません。普段、あなたが当たり前と思って言っていることや考えていること、もしかするとそれは「アンコンシャス・バイアス」かもしれません。



女性研究者からのメッセージ

The Message



河合寿子 先生

学術研究院 准教授 (理学部主担当)

生きる

私の命は、どこまで遡れるのだろうか。江戸時代、平安時代…石器時代、もっともっと。現在の人の形になる前、類人猿、ネズミのような哺乳類、もっともっと。中生代、古生代、海の中にいた小さな生き物。そこにもいたはず、ご先祖様。私は突然現れたわけじゃない。連綿と続く命の先端にたまたま今いるだけ。そして、すぐに波にのまれるように生態系に戻って行って、私も過去の生き物になる。小さな頃によく考えていた。生き物は何で死ぬのだろうか。「おじいちゃんが死んじゃった。なんでずーっと生きていくことはできないの?」同じ個体が寿命という概念に縛られず生き続けることができないのはなぜなのか、その理由がわからなかった。

そのうち私は理学部に入り生物学を学びはじめた。系統樹を見ると、生物は多様に進化している。手当たり次第に枝を伸ばして、進化して、絶滅して。生命は、試行錯誤している。地球環境は絶えず変化しているから、10万年前に最適だった生体システムが今日の環境で最適とは限らない。同じ個体がずっと生きていくことは生命としてリスクが高すぎる。寿命があり次の世代を残すということは「生命の設計図(ゲノム)を変え続け、何らかの生き物として存在し続ける」という生命全体としての戦略なのだ。生命誕生から数十億年、今のところこの戦略は成功している。

…そして今、この地球に存在する *Homo sapiens* は多様性のある集団なのだろうか。人種、思想、あれやこれやと違いを見つけて理由をつけて多様性をつぶしてはいないだろうか? 多様性を受け入れ、維持しておかないと、ある時あっという間に絶滅するのである。

特別貸出コーナーから 今日の一冊!



小白川図書館の特別貸出コーナーには、国立女性教育会館(NWEC)から様々なテーマに合わせた所蔵図書をお借りし、学内の皆様に貸出を行っております。10月~12月の書籍テーマは、「男女共同参画、子ども、社会、病氣・闘病記、ファッション」で、その数なんと100冊!

その中から、今日の一冊!

「18時に帰る」

この本は、オランダが行ってきた働き方改革についてまとめています。「世界一子どもが幸せな国」と呼ばれるオランダ。30年前は日本と同じように「男性が働き、女性が家庭を守る」事により起こる課題を抱えていました。それが今や、女性の就業率は70%にまで達し、高齢者の就業率も飛躍的に向上、GDPも日本を逆転しました。キーワードはともにもシンプル。「18時に帰るだけでいい。」そのためにオランダが行ってきた「ソフトウェア」とは? オランダ式「テレワーク」や「ワークシェアリング」等の働き方改革に加え、意識改革をどのように行ってきたか等、幸せになる働き方のヒントが満載です!

参考: 1 more baby 応援団ウェブページ (<https://www.1morebaby.jp/contents-ehon03/>)

ダイバーシティ推進室からのお知らせ

『報告』 令和4年度男女共同参画およびダイバーシティセミナーを開催しました。

◎報告会(令和4年6月22日開催)

【第7回山形大学男女共同参画アンケート結果、取組報告】

◎講演会(令和4年6月23日開催)

【講師: 山形県男女共同参画センター館長 伊藤真知子氏】

【地方だからこそ、ダイバーシティ ~男女共同参画週間に寄せて~】

◎研修会(令和4年6月28日開催)

【講師: 山形大学学術研究院准教授 中澤未美子氏】

【「多様性に関するガイドライン」について -あなたにも関係すること-】

【ご案内】 おしゃべりしながら、ホッとできる場所として「女性研究者の集い」を毎月第3木曜日に開催しています。ご案内は、各キャンパス担当事務部を通じてお知らせしております。



山形大学ダイバーシティ推進室

〒990-8560 山形市小白川町1-4-12

023-628-4937/4939

E-mail yu-y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

URL <http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/>

